

六
点

(例一)

を重がよ るる性
 すし分う以とこで仕
 る、かに前考とす事
 こ協れそ、えで。を
 と力まの先る、相す
 がしし仕生か気手る
 司で合た事から持のう
 生きつ。をらでち考え
 またし進仕す良えで
 こしかめ事をくを最
 したとしるを 仕受も
 。で、か頼 事を入切
 こ、おでま をすれな
 の気互、れ する、こ
 時持い友た る、こと
 、ちのだとき ことをは
 仕良意ちき とを合、
 事く見と、 がわ協
 。を仕を意ど でせ調
 す事尊見の き

*

・いよわ確
 ・うすに自
 ・な力伝分
 ・観をわの
 ・点みる考
 ・にるよえ
 ・基問うや
 ・づ題に意
 ・いで適見
 ・採るにま
 ・点。書と
 ・さきめ、
 ・れ下あ、
 ・たのら的

・がに何いびもと一
 自がに何いびもと一
 分わ示がる、大―仕
 のかし最か自切に事
 考る、も。分だつを
 えよその切のといす
 がうの後だと考えう、う
 的に書にと思を明と
 確にい、思確をの、
 伝て選う確に一中大
 わいんか書をつか切
 るるだを最
 よか理最
 う。由初て最